４．利用状況の把握

４－１．ＯＤ調査の概要
４－２．ＯＤ調査の結果

4－1．ＯＤ調査の概要

1）調査の目的

本調査は、本市内を運行する路線バス（富士急静岡バス㈱、山交タウンコーチ㈱、宮バス）の利用状況及び利用者の動向を把握するために行った。なお、「宮タク」については運行事業者から平成 21 年 8 月の運行状況資料の提供を受けて OD 調査に替えた。

2）調査の方法

①調査対象

調査対象路線は図 4-1 のとおりであり、本市内を運行する路線のうち、年間を通じて運行している路線を対象とした。また、調査対象便数は表 4-1 のとおりであり、運行便数の約 90%に対して調査を実施した。

表 4-1　調査対象路線及び便数

路線	主な経由地	運行便数	調査対象便数	対象便割合	乗車人数(1便当り)	事業者
① 万野粟倉循環	富士宮駅 ～ 万野団地入口 ～ 粟倉団地 ～ 富士見ヶ丘 ～ 富士宮駅（万野粟倉循環）	16	12	75.0%	172 (14.3)	富士急静岡㈱
② 粟倉万野循環	富士宮駅 ～ 粟倉団地 ～ 万野団地 ～ 富士宮駅（粟倉万野循環）	13	9	69.2%	139 (15.4)	
③ 富士急ハイランド線	新富士 ～ 富士宮駅 ～ 河口湖駅 ～ 富士急ハイランドバスターミナル	10	9	90.0%	7 (0.8)	
④ 白糸･猪ノ頭線	富士宮駅 ～ スポーツ公園入口 ～ 北山 ～ 白糸の滝 ～ 猪ノ頭	52	46	88.5%	611 (13.3)	
⑤ 二本松線	富士宮駅 ～ 学校入口 ～ 橋戸 ～ 粟倉団地 ～ 神成 ～ 二本松	2	2	100.0%	17 (8.5)	
⑥ 上条線	富士宮駅 ～ 富丘 ～ 大石寺前 ～ 上条	19	18	94.7%	161 (8.9)	
⑦ 上柚野線	富士宮駅 ～ 大中里 ～ 柚野支所 ～ 上柚野	12	10	83.3%	47 (4.7)	
⑧ 富士中央病院線	吉原中央駅 ～ 富士中央病院 ～ 大月線 ～ 富士宮駅	56	52	92.9%	297 (5.7)	
⑨ 中野線	西富士宮駅 ～ 富士宮駅 ～ 富士脳研病院入口 ～ 中野 ～ 吉原中央駅	20	18	90.0%	140 (7.8)	
⑩ 富士宮営業所線	富士宮駅 ～ 湧玉の池 ～ 富士宮営業所	1	1	100.0%	0 0.0	
⑪ 蒲原病院線	富士宮市内 ～ 星山台 ～ 富原橋 ～ 中野台 ～ 富士川駅 ～ 蒲原病院 ～ 蒲原中学校	27	22	81.5%	78 (3.5)	山交タウンコーチ㈱
⑫ 宮バス	外回り･内回り	16	16	100.0%	128 (8.0)	富士宮市
合計		244	215	88.1%	1797 (8.4)	

※⑤ 二本松線の調査については、万野粟倉循環、粟倉万野循環にて対応

②調査日

平成 21 年 7 月 29 日（水）

③調査方法

路線バスに１名の調査員が乗車し、バス利用者の乗車した停留所、降車した停留所を確認し、OD に整理した。

OD（Origin　Destination）とは

O（Origin）は出発地、D（Destination）は目的地のこと。
本調査の場合は「あるバス停で乗車した旅客が、どのバス停まで乗車しているか」を示す。

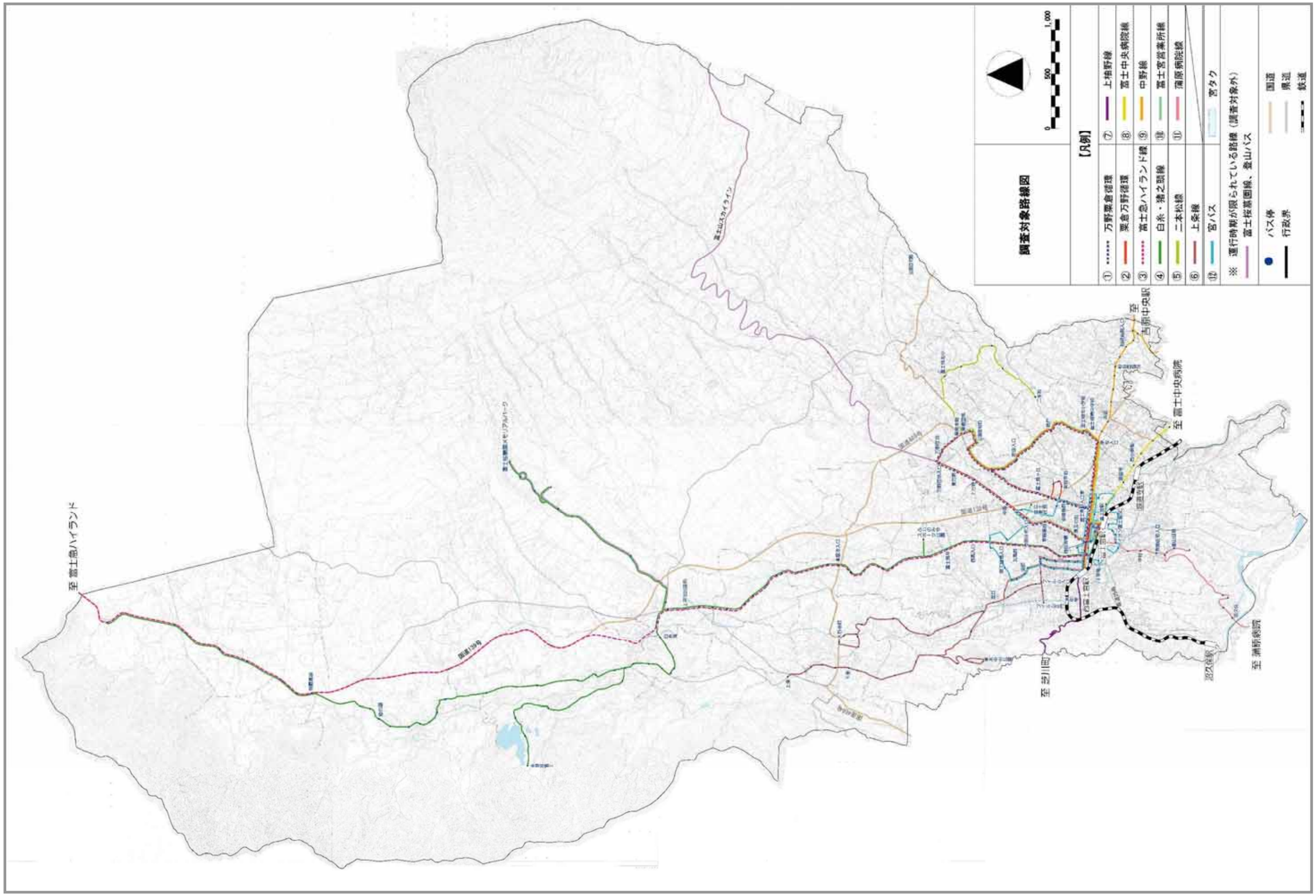
調査対象路線図
0
500
1,000
【凡例】
① 万野栗倉循環
② 栗倉万野循環
③ 富士急ハイランド線
④ 白糸・猪之頭線
⑤ 二本松線
⑥ 上条線
⑦ 上柚野線
⑧ 富士中央病院線
⑨ 中野線
⑩ 富士宮営業所線
⑪ 蒲原病院線
⑫ 宮バス
※ 運行時期が限られている路線（調査対象外）
富士桜高原線、登山バス
バス停
行政界
国道
県道
鉄道
富士山スカイライン
至 富士急ハイランド
至 富士中央病院
至 蒲原病院
至 岩川町
蒲原中央駅
宮

図 4-1　調査対象路線図

４－２．ＯＤ調査の結果

1）各路線の利用状況

万野粟倉循環	【市郊外部から中心市街地へのアクセスの確保】
概要	富士宮駅を起終点とし、万野団地、粟倉団地を経由する循環路線。一部の便については、富士根南小学校及び富士根南中学校を経由する。
利用状況	□1 便当たりの乗車人員は 14.3 人となっており、調査対象便の平均を上回っている。 □停留所別では乗車・降車ともに富士宮駅が最も多く、住宅団地に近い万野団地入口での乗降者も他の停留所に比べ多くなっている。 □中原から東万野間は、乗車はそれほど多くないものの、比較的多くの降車利用があった。

粟倉万野循環	【市郊外部から中心市街地へのアクセスの確保】
概要	万野粟倉循環と同様に富士宮駅を起終点とし、万野団地、粟倉団地を経由する循環路線であり、運行順路は万野粟倉循環と逆となる。一部の便については、富士根南小学校及び富士根南中学校を経由する。
利用状況	□1 便当たりの乗車人員は 15.4 人となっており万野粟倉循環同様調査対象便の平均を上回っている。 □停留所別の傾向も万野粟倉循環に近く、富士宮駅での乗車が最も多く、住宅団地に近い停留所（公営住宅前や万野団地入口）での乗降も比較的多い。

富士急ハイランド線	【その他】
概要	新富士駅と富士急ハイランドバスターミナル間の運行を基本とする路線であり、国道 139 号を運行することで速達性を高めている。また、ルート上には「白糸の滝」や「朝霧高原」など本市を代表する観光資源が存在する。
利用状況	□白糸の滝や朝霧高原を結ぶ観光的な要素の強い路線であり、調査日が平日であったこともあり、利用者は 10 人に満たなかった。

白糸・猪之頭線	【市郊外部から中心市街地へのアクセスの確保】
概要	富士宮駅と市北端の「根原」を結ぶ路線であるが、「富士宮駅」～「根原」間の運行は平日の朝に富士宮駅へ向かう 1 便のみである。約半数の便が途中の「白糸の滝」を起終点としており、「白糸の滝」以北については「猪之頭」や「休暇村富士」が起終点となる。
利用状況	□総乗車人員は 611 人と全体の 34%を占め、1 便当たりの乗車人員も 13.3 人調査対象便の平均を上回っている。 □富士宮駅へ向かう便では、西高入口や鉄工団地入口からの乗車が多く、運行便数が少ないこともあり「白糸の滝」より北側の停留所からの利用は少ない。 □また、降車については富士宮駅での降車が 56%と半数を超えている。 □富士宮駅からの便については、約 60%が富士宮駅からの乗車となっており、「白糸の滝」より北側の停留所からの乗車は無かった。 □また、降車については、北高前、鉄工団地入口、西高入口での降車が多くなっている。

二本松線	【市郊外部から中心市街地へのアクセスの確保】
概要	平日の朝・夕に 1 便ずつ運行しており、運行ルートは、富士根南小学校及び富士根南中学校、粟倉団地、富士根北小学校及び富士根北中学校を経由して二本松を結んでいる。
利用状況	□富士宮駅へ向かう便、富士宮駅からの便がそれぞれ 1 日 1 便ずつなので、1 便当たりの乗車人員は 8.5 人と平均に近いが、総乗車人員は多くない。 □富士宮駅へ向かう便では、公営住宅前から時田入口にかけての乗車が比較的多く、降車は富士根南中学校が多くなっており、学生の利用が多いものと考えられる。 □富士宮駅からの便については、富士宮駅へ向かう便に比べ利用者は少なくなっている。

上条線	【市郊外部から中心市街地へのアクセスの確保】
概要	富士宮駅と上条を結ぶ路線を基本とし、上条から富士宮駅へ向かう便の一部については青木団地を経由している。また、平日の夕方の 1 便に限り富士宮駅から大石寺へ運行している。
利用状況	□1 便当たりの乗車人員は 8.9 人と調査対象便の平均を上回っている。 □富士宮駅へ向かう便については、富士宮駅での降車が中心となっており、富士宮駅からの便については、同様に富士宮駅での乗車が最も多くなっているが、途中、西富士宮駅を経由することから、同駅からの乗車も比較的多くなっている。 □この路線には大石寺前と富士宮駅を結ぶ唯一の便が 1 便あるが利用者は路線の平均よりも少ない。

上柚野線	【富士宮市と他市町間のアクセスの確保】
概要	富士宮駅を起終点とし、唯一本市と芝川町を結んでいる広域的な路線。
利用状況	□本市と芝川町を結ぶ路線であり、富士宮駅へ向かう便については、市外からの利用が中心となり、降車は富士宮駅、西富士宮駅が多くなっている。 □富士宮駅からの便は、上記と逆の傾向にあり、富士宮駅、西富士宮駅からの乗車が多く、市外までの利用が中心となっている。 □総乗車人員も少なく、1 便当たりの乗車人員も 4.7 人と調査対象便の平均に満たない。

富士中央病院線	【富士宮市と他市町間のアクセスの確保】
概要	富士宮駅と吉原中央駅を結ぶ、本市と富士市間を運行する広域的な路線の 1 つ。市内の運行は富士宮駅から源道寺駅周辺までであり、ほとんどが富士市内の運行となっている。
利用状況	□総乗車人員は比較的多いが、運行便数も多いため、1 便当たりの乗車人員は 5.7 人と平均よりも少ない。 □本市と富士市を結ぶ路線であり、富士宮駅へ向かう便については、市外からの乗車が 90%近く、降車は富士宮駅が最も多い。また、西小泉町や源道寺での降車も比較的多い。 □富士宮駅からの便は、富士宮駅へ向かう便とは逆の傾向にあり、富士宮駅での乗車が最も多く、源道寺や西小泉町からの乗車も比較的多くなっており、市内での降車はほとんど見られない。

中野線	【富士宮市と他市町間のアクセスの確保】
概要	朝・夕については西富士宮駅から富士脳研病院を経由し富士市（曽比奈）を結ぶ路線を、日中については、富士宮駅から富士脳研病院を経由し、吉原中央駅を結ぶ路線を基本とする。本市と富士市間を結ぶ広域的な路線の 1 つ。
利用状況	□1 便当たりの乗車人員は 7.8 人と調査対象便の平均には届いていない。 □本市と富士市を結ぶ路線であり、西富士宮駅へ向かう便については、約半数が市外からの利用となっており、降車は富士宮駅入口東が最も多くなっており、西富士宮駅までの利用は多くない。 □西富士宮駅からの便については、富士宮駅からの乗車が中心であり、富士宮駅入口東から赤坂にかけても比較的多くの乗車が見られる。また、降車については、脳研病院入口が比較的多くなっているものの、半数以上は市外までの利用となっている。

富士宮営業所線	【その他】
概要	富士宮営業所～富士宮駅間を平日の朝 1 便のみ運行している。富士宮駅始発便の回送区間を効率的に活用したものである。
利用状況	□1 日 1 便のみの運行ということもあり、今回の調査では利用者は見られなかった。

蒲原病院線	【富士宮市と他市町間のアクセスの確保】
概要	富士宮駅から星山団地を経由し、蒲原病院を結ぶ路線を基本とし、多くの便はイオン富士宮 SC も経由している。本市と富士市間を結ぶ広域的な路線の１つ
利用状況	□1 便当たりの乗車人員は 3.5 人と平均の半分に満たない。 □本市と富士市を結ぶ路線であり、富士宮駅へ向かう便については、半数程度が、市外からの利用であるが、星山団地から中村にかけても比較的多くの乗車が見られ、また、降車については 70%がイオン富士宮 SC と神田宮橋となっている。 □富士宮駅からの便については、イオン富士宮 SC からの乗車が最も多く、富士宮駅から神田宮橋にかけての乗車も比較的多い。また、降車については市営住宅入口が比較的多いものの半数以上は市外までの利用となっている。

宮バス（内回り、外回り）	【中心市街地の主要施設間のアクセス確保】
概要	総合福祉会館と市街地周辺の公共施設、医療施設、ショッピングセンターなどと住宅地を結ぶ市街地循環バス路線
利用状況	□1 便当たりの乗車人員は 8.0 人と調査対象便の平均と概ね近い値となっている。 ― 内回り ― □乗車は総合福祉会館、富士宮駅、本市役所が多くなっており、イオン富士宮 SC からの乗車も比較的多くなっている。 □降車については、乗車よりも停留所のばらつきがあるものの、本市役所や総合福祉会館での降車が比較的多く、中央図書館からイオン富士宮 SC 間及び天神眼科病院から加藤脳神経外科間の降車も多くなっている。 ― 外回り ― □乗車については、総合福祉会館及びお宮横丁からが比較的多くなっており、本市役所、イオン富士宮 SC、総合福祉会館、指出泌尿器科、淀師での降車が多くなっている。

宮タクの運行については、各空白地域での乗降は自宅であることから、街中エリアにおける状況を分析した。

宮 タ ク	【市郊外部から中心市街地へのアクセスの確保】
概要	路線バスの運行していない交通空白地域において、中心市街地への必要最低限のアクセスを確保するために運行しているデマンド型乗合タクシー
利用状況	― 山宮エリア ― □イオン富士宮 SC や市立病院での乗降が多く、一方で、富士宮駅での乗降は比較的少ない。 □乗降別では、乗車が最も多いのはイオン富士宮 SC で、降車が最も多いのは市立病院となっている。 ― 山本エリア ― □乗降が最も多いのはイオン富士宮 SC であり、次いで、東町となっている。 □乗降別では、イオン富士宮 SC での乗車が全乗車中約 80%と最も多い。降車については、東町が最も多く、大宮町や本市役所での降車も比較的多いが。これらの場所からの乗車は見られない。 □全体では乗車に比べ降車での利用が多い。 ― 安居山エリア ― □利用者の約 60%がイオン富士宮 SC での乗降となっており、乗車だけに限った場合は約 90%がイオン富士宮 SC となっている。 □降車については、富士宮駅や宮町も比較的多い。

2）富士宮市のバス路線利用の傾向

本市の路線バスなどの利用には以下のような傾向がある。

民間バス路線

A：市郊外部から中心市街地へのアクセスの確保

【万野粟倉循環：粟倉万野循環：白糸・猪之頭線：二本松線：上条線】

□乗車、降車ともに最も利用が多いのは富士宮駅であり、それ以外で乗降が多くみられるのは住宅団地周辺や病院、中学校、高等学校などの停留所となっている。

□「万野粟倉循環」、「粟倉万野循環」の各循環路線や「白糸・猪之頭線」を筆頭に全ての路線で 1 便当たりの平均乗車人数が調査対象便の平均を上回っている。

B：富士宮市と他市町間のアクセスの確保

【上柚野線：富士中央病院線：中野線：蒲原病院線】

□市内での乗降は富士宮駅が中心となっている。

□どの路線においても、1 便当たりの平均乗車人数は調査対象便の平均に届かないものの、ほとんどの利用が市町間をまたがった広域的な利用となっている。

宮バス

□宮バスの利用は、イオン富士宮 SC、富士宮駅及び本市役所が中心となっており、市街地における循環バスとしての役割を果たしているものと考えられる。

宮タク

□宮タクの利用については、エリアごとに差はあるものの、イオン富士宮 SC における利用が中心となっており、買物など日常の生活の足として活用されていることが伺える。